

女性の活躍推進に向けたプロジェクト（案）

1 課題

- (1) 女性自身の挑戦を引き出すロールモデルや精神的支柱の不足している。
- (2) 県内企業経営者にメリットが正しく認識されていない。負担感ばかりで、リアルな効果が実感されていない。
- (3) 男女共同参画センターやあきたF・F推進員などが有効活用されていないほか、県民のニーズに合ったサポートが提供できていない。

2 取組方針

本県の現行の施策は他県に劣るものではないため、推進上のボトルネックを明確化し、推進方法を見直す。

3 取組

1 官民一体による女性の意識改革

- (1) 女性の相互研鑽の場として、WEBを活用したラウンドテーブルの定期開催 ⇒ AKITAガールズネットワークの構築
対象：①若手社会人 ②大学生・高校生（就労前）
③第二M字世代（60代以降）
- (2) ゲストスピーカーによる学びの場の提供
- (3) メンバー同志の相互研鑽の場として人材育成活動のサポート

2 企業経営者の理解促進

- (1) 女性の活躍推進に関する企業の好事例の収集と横展開
- (2) TVやSNSなど新たなチャネルを活用した積極推進企業の紹介
- (3) 女性活躍の理解促進に向けた経営者に対する情報提供

3 リソース活用の促進

- (1) 「あきたF・F推進員」や「女性人材登録名簿登録者」、男女共同参画センターの関係者、有識者との対話を通じた仕組み・体制のあり方における課題の洗い出し
- (2) 上記のリソースの効果的な活用方策の検討

4 効果

女性活躍推進は、本県の様々な課題解決の糸口。

- ・ 人口減少による労働力減少の影響緩和
- ・ 世帯収入アップによる経済の活性化
- ・ 県内就職率の向上や、企業のイメージアップ戦略にも寄与
- ・ 若年女性の県内就職促進



5 スケジュール

R 3 年度	R 4 年度
課題の明確化と改善策策定のためのトライアル&エラー (1) ラウンドテーブルなど、企業を巻き込んだ官民一体の企画 （対象：①若手社会人のみ） (2) 情報発信の手法、対象別アプローチ方法の見直しによる情報発信体制の再構築 (3) 現行施策における役割の整理、棲み分け、リソースの最適化	R 3のトライアルを踏まえ、確実に効果が出ると予想されるものを集中実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県の女性職員をプロジェクトリーダーに据えて本格実施 ・ R 5年度以降も持続的に発展運営できる体制づくり ・ ラウンドテーブルの対象を「②大学生・高校生（就労前）」「③第二M字世代（60代以降）」にも拡大